地方創生で活気のある町に　議会だより

かつうら

No.97
2023.12.30

2. 〈Pick Up!〉令和４年度一般会計決算３９億 9000 万円
「勝浦病院改築」「ブランド化」「消防団員確保」
4. マラソン会議（９月～ 11 月）
6.《特集！》OVER TALK かつうらアップデート
「スポーツ振興と勝浦の子ども達」
11. 一般質問
20. ぶっちゃけどうなの？ 広報モニター会議 / 人事人選
21. 新年に向けてのご挨拶 / 編集後記
22. ―地域のホシ　ガンバる人― かつうらガンバロウズ
『荻野 慎諧 恐竜の町かつうらへの扉を開けた恐竜博士』

Pick up!

令和4年度の一般会計決算歳出総額39億9000万円

9月12日、13日、14日、15日、21日にわたり、一般会計・特別会計の決算を審査しました。

審査は会計ごと、また担当課ごとに行われ、適正に支出されているか、不用額は妥当であるか、事業は計画通り実施され成果を上げているかなどについて、細かく質疑がなされました。

産業振興

試作品製造施設から営業許可施設に方針転換

――オレンジファクトリーを営業許可基準充足施設化し、許可取得者を5団体程度と目標にしているが、令和4年度1団体、5年度を含めても2件という事である。この実績についての考えと今後の取り組みは。

上村農業振興課長

試作品製造施設から営業許可施設に方針転換したため、実績が少なかった。今後は広報とかホームページで周知していきたい。

阿波かつうらブランド化事業
1,825万円

市場販売戦略展開事業
266万円

横浜に出す広告は効果測定可能

――大阪に熟成みかんの広告を提示していたが、その効果が調べられない状態は非常にもったいない。今後、横浜に広告を出すと聞いているが、宣伝効果の確認できる計画にしてもらいたい。

農業振興課長

横浜に出す広告は、ウェブ広告のクリック数の確認ができる。

ふるさと納税
2,187万円

教育

恐竜事業
857万円

医療福祉

勝浦病院改築事業
1億7,380万円

――勝浦病院の課題は医師確保と入院患者の減である。政策監は県での業務の経験や実績から勝浦病院をどのように評価されているか。

佐藤政策監

医師確保は厳しい現状だが、県と連携して取り組んでいる。地域の方にかかりつけ医として受診して頂く事によって、経営も安定していくのではないか。

サルビア作業所移転事業
672万円

個別避難計画作成推進事業
65万円

――この事業は災害時の支援や平常時の見守りに役立てるものであるが、なぜ一部の地区にしか提供できていないのか。

長友福祉課長

令和4年度3月末で62件完成している。7月に棚野地区から要望があり、25件提供した。実際の避難についてのルートや支援方法など、計画が整い次第情報提供をしていきたい。

まちづくり防災

適正な団員確保の取組事業
1,336万円

道路改良事業（八石線）
5,439万円

浄化槽設置整備事業
41万円

浄化槽設置補助金額を改善

――4年度は1件の申請しかなく補助制度を見直したそうだが、どのように見直したのか。

大上上下水道課長

浄化槽設置にかかる宅内配管工事に上限30万、建設課で実施している耐震リフォーム工事と一緒にすると、設置費用に上限5万円の補助金を上乗せする。また、単独槽の撤去費用についても3万円上乗せした。

――補助の申請がたくさんあって予算が足りなくなったらどうするのか。

上下水道課長

必要であれば補正対応したい。

マラソン議会

9月・11月

9月会議

自転車ヘルメット着用促進事業
30万円

「改正道路交通法」により、自転車利用者のヘルメット着用が努力義務となった。高齢者および高校生に対しヘルメットの購入費用の一部を補助。補助金額は購入額の2分の1（上限3000円）。

ヘルメット補助 小さい子どもは対象外

――小さいお子さんは対象じゃないのか。どういった条件で対象を決めているのか。

後藤住民課長

今回の事業に関しては対象外。高齢者は事故による死亡割合が高く、高校生の場合は負傷者となる割合が高いことから対象者として選択している。

公共土木施設災害復旧事業
3969万円

梅雨前線豪雨（6月1～3日）により被災した7ヵ所の公共土木施設を復旧する。

林道施設災害復旧事業
2248万円

梅雨前線豪雨（6月1～3日）により被災した林道施設（婆羅尾尖石線）を復旧する。

6月豪雨の林道危険箇所 看板設置などで措置

――危険そうな場所の把握と予防措置は。

海川建設課長

ある程度は把握していて、看板を設置するなどの措置は講じている。すべての予防工事を実施することはできないので、被災後に災害査定を受けて復旧する形で対応する。

子ども及び妊婦のインフルエンザ予防接種費助成事業
101万円

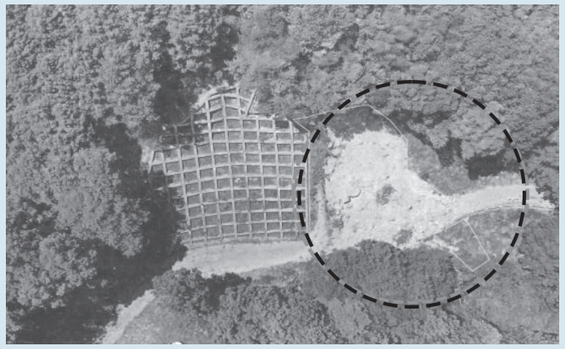
集団生活を行い感染拡大が起こりやすい子どもと重症化リスクのある妊婦のインフルエンザ予防接種に関わる自己負担金を助成する。対象者は生後6ヵ月～18歳および妊婦。助成額上限は1回目2000円、2回目1000円で、助成対象となる接種期間、申請受付期間は10月1日～1月31日。

ワクチン接種は任意

――ワクチンには副作用があり、自己責任というのをしっかり広報に載せてほしい。

長友福祉課長

任意接種なので本人の希望により接種する。副作用の周知に関してはパンフレット等の内容を確認しておく。



崩れた婆羅尾峠

11月会議

道の駅「ひなの里かつうら」情報館と勝浦町地域活性化センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について

指定管理者制度において、民間事業者の活力を活用した費用対効果の向上のため、施設の使用料を利用料金とし、指定管理者の収入とする規定を設けるほか、業務を明確に規定するなどの整理を行う。

主な一般会計補正

補正含め総額41億2,331万円

補正予算（9月・11月） 主な内容	（万円）
公共土木施設災害復旧事業（道路9ヵ所、河川1ヵ所）	6,137
林道施設災害復復旧事業（林道1ヵ所）	2,248
農業用施設災害復旧事業（農道1ヵ所）	1,302
予備費の積増し	1,084
参議院徳島県及び高知県選挙区補欠選挙事務事業	660
個人情報保護事務安全管理措置等対応支援業務	352
高齢者インフルエンザ定期接種促進事業	152
子ども及び妊婦のインフルエンザ予防接種費助成事業	101
固定資産税還付金支払事務	100
介護保険特別会計繰出金	98
低所得者保険料軽減負担金過年度分生産事業	71
自転車ヘルメット着用促進事業	30
ファミリー・サポート・センター利用料金助成事業	1

大にぎわいの道の駅マルシェ　みかん詰め放題

利用料金制度を導入し管理者の収入とする

――説明の中であった、使用料を利用料にということだったが、もう少し詳しく説明を。

寺尾企画交流課長

通常、施設を利用した時の料金は使用料として町の収入となるが、この利用料金制度を導入することによって指定管理者の収入となり、施設を管理していくための費用に充てることができる。

令和5年度勝浦町星谷運動公園遊具購入（設置及び撤去）契約の締結について

故障しているスプリング遊具2基の撤去を行い、新たにちびっこハウス、小型すべり台、ネット遊具、ユニット砂場を設置する。

運動公園の遊具点検 月1回行っている

――定期的に点検はしているのか。

石木教育委員会事務局長

運動公園の管理はシルバー人材センターに管理業務委託をしている。遊具の点検は概ね月1回点検を行い、報告も受けている。

待ちに待った遊具

全会一致可決

〈議員提案〉生活保護基準の引き上げを求める意見書

物価高騰に見合う生活保護基準の引き上げを求める意見書を内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、厚生労働大臣等に提出。

ようこそ!!勝浦町へ

視察受入報告

- 10月5日　長崎県五島市議会
- 11月8日　福岡県添田町議会

五島市は広報特別委員会、添田町は広報広聴常任委員会が来町されました。広報活動や議会だよりの編集、広報誌作成費用や住民モニター制度等について活発な議論が交わされました。

「OVER TALK(オーバートーク)」は、毎回テーマに沿った住民に集まっていただき一つのテーマについて、話しすぎていただく（≒オーバートークしていただく）、誌面・インターネット動画連動型の新企画です。

OVER TALK かつうらアップデート

話しすぎるほど
語り尽くそう
私たちの町のこと

《テーマ》

「スポーツ振興と勝浦の子ども達」

勝浦のスポーツ振興に少子高齢化が落とす影

国の新しい方針「中学校における部活動の地域移行」は、中学校の部活動を学校から地域コミュニティへと移行させるもので、勝浦町の子供たちにとって、より多様で豊かなスポーツ体験を提供するための重要な一歩となります。

《プロローグ》

勝浦町とスポーツ振興

ここ最近の勝浦中学校は目覚ましい活躍がありましたが、勝浦町のような小さい町では少子高齢化により部員不足が顕在化し、チーム編成に大きな影響を及ぼしています。このような状況の中で、私たちはどのように子供たちのスポーツ振興を図っていくべきでしょうか。

第6回目となる「OVER TALK」のテーマは、**「スポーツ振興と勝浦の子ども達」**。少子高齢化とともに、地域のスポーツ振興のあり方はその形を変えざるを得ない場面に直面している。そんな中で子ども達の健康・スポーツへの親しみをどう守っていくのか。

今回のOVER TALKでは、小学生の各スポーツ団体の指導者にお集まりいただき、勝浦町が直面するスポーツ振興や部活動の課題について真剣に議論し、未来への方向性を探った。本討論を通じて、勝浦町の子ども達にとって最良の環境をどのように構築していくかを共に考え、行動に移していくきっかけとしたい。

――今回のテーマは「スポーツ振興と勝浦の子ども達」です。小学生を中心としたスポーツ団体関係者の皆様に討論していただきます。

〈Q1〉部員や指導者不足の解消のアイデア

――1つ目のクエスチョンは、「部員や指導者不足の解消に向けて」です。具体的なアイデアや思いについてお答えください。

梅山　子どもたちには試合をさせたいが、保護者の負担を考えると試合数の抑制が必要かも。

瀧花　勝浦道場は生徒が3人しかいない。他のスポーツに比べたら触れる機会が少ないので、保育園や小学校で空手に触れる機会ができたらいい。

柿原　子どもに合わせた体験会、指導できる時間を確保するために行政の協力が必要。走るというのは基本的な動作で、他のスポーツにも役立つ。38人参加しているが、他のクラブに入っている子もいるので下積みを心がけている。

松本　町内だけでは限界があり、飯谷や渋野など、いろんな地域から来てほしい。また、月に1回、就学前の幼児と家族のサークル活動をしている。保育所から定期的に運動を楽しむ習慣が作れたらと思っている。

廣松　小学3年生までを対象に「キッズサッカー教室」をしている。機会をつくることで、スポーツ人口も増えていくと思う。また、保護者の負担を減らすことで部員は増えるのではないか。

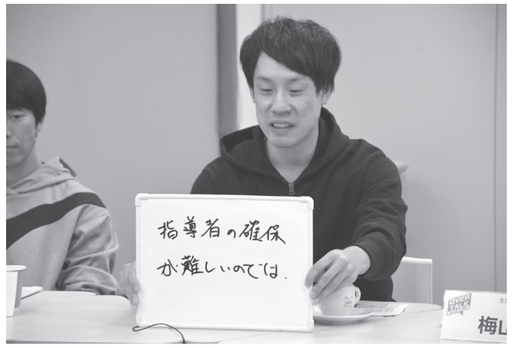
――みなさん聞いてみたいことがあったらどうぞ。

梅山　保護者の負担が気にかかっている。試合をさせないと強くならないので、兼ね合いが難しい。バスケはどれくらいの頻度で試合をしますか。

松本　今は大会前なので、11、12月はほぼ毎週。自分の子どもが小さく指導に時間を割けないため、月2回を目安に運営しています。

瀧花　試合は少なく、春と秋、冬。

廣松　試合は多いが、カテゴリーが2年生以下から1学年ごとに分かれている。小学校のサッカーは8人制なので、足りない場合は下の学年から出る。指導者はどの試合にも行く必要があるので負担が大きい。



〈Q2〉部活動の地域移行への考え

――2つ目のクエスチョンは、「中学校の部活動に望むこと。部活動の地域移行への考え」です。お答えください。

このコーナーは、誌面と動画の連動企画です。インターネット上で動画を見ることができます。

連動

http://www.town.katsuura.lg.jp/gikai/chukei/feature/index.html

《会場》
勝浦町地域活性化センター REVITA かつうら

『観光、交流又は移住についての業務』『地域のコミュニティ活動の振興業務』及び『地域資源を活かし、町を活性化するための業務』を行う施設として、2017年JA東とくしま「よってネ市」の隣にオープン。

《進行役》
廣瀬（ひろせ） 芳枝（よしえ）

学習塾を運営する傍ら、「K-Friends」で10年以上理事を務めていた。「とくしま移住コーディネーター」でもあり、移住に関する支援もしている。

《テーマ》
「スポーツ振興と勝浦の子ども達」

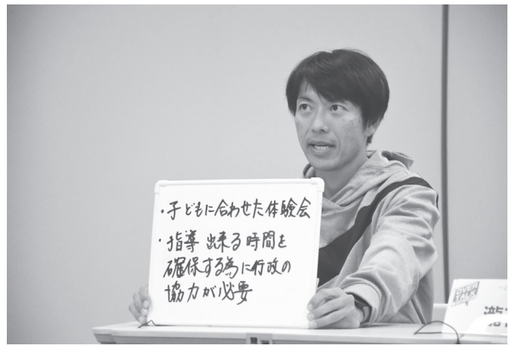
柿原　部活の時間が1番練習しやすいが、仕事をしているコーチ陣は見れない。行政のアプローチ、協力が絶対必要。行政や中学校と連携し、子どもをメインで考えた動きがしたい。

瀧花　部活動の時間は4時から6時頃。その時間は仕事があり、行政や学校の先生方の協力が必要。みんなで話し合って良い方向を探していきたい。

梅山　部活の時間帯に指導できる会社員はほとんどいない。指導者として中学生を教えるのは、小学生を教えるのとレベルが違う。昔の感覚で教えてしまいがちになるので怖い。

松本　地域移行の流れも、教員の負担軽減がそもそもの出発。以前からある部活動指導員制度では時給や時間数に制限があった。制度や資金面をしっかり整えることが先ではないか。

廣松　課題が多すぎて、結局のところわからない。部活の自由選択も全然ありだし、先生の負担軽減も理解できる。今はぼんやりした形しかないので、課題はあるが「分からない」にした。



――それぞれお聞きになりたいことはないですか。

松本　例えばスイミングスクールは月謝を払って通っている。スイミングスクールのような民間のスポーツクラブと学校が連携し、地域移行するのが1番しっくりきている。塾に行くような感覚に近いのでは。

廣松　教員には異動がある。逆に外部コーチが教えている所に教員で詳しい人が来た場合、「出て行け」ってなるのでは。部活動の地域移行についての概要を聞いても、突っ込みたくなるようなところしかない。

松本　顧問をやりたい先生と地域のボランティアとの人間関係のもつれみたいなのは多分あるはずで、学校側、教員の意識も変わらないといけない。また、今の給料を保証し、単年契約じゃなく、ある程度長いスパンでお任せできる仕組みがあったら、仕事として手を挙げる人は多いのでは。

柿原　学校側は部活を増やすことはできないと言い続けている。1人でも走りたいっていう子がいるならば、自分自身が指導しようと思っている。自分が選手を続けているので、子どもを引っ張りながら走りを楽しむっていう、自分の練習プラス、子どもらの能力を上げていきたい。

瀧花　空手も火曜日と木曜日の夜7時から9時まで練習しているが、時間を合わせて中学生が来てもらえるんだったら指導したい。こういう形で貢献できるんであればしていきたい。

梅山　学校の先生には異動があるが、仕事をしているコーチ陣は見れない。行政のアプローチ、協力が絶対必要。行政や中学校と連携し、子どもをメインで考えた動きがしたい。

瀧花　部活動の時間は4時から6時頃。その時間は仕事があり、行政や学校の先生方の協力が必要。みんなで話し合って良い方向を探していきたい。

梅山　部活の時間帯に指導できる会社員はほとんどいない。指導者として中学生を教えるのは、小学生を教えるのとレベルが違う。昔の感覚で教えてしまいがちになるので怖い。

松本　地域移行の流れも、教員の負担軽減がそもそもの出発。以前からある部活動指導員制度では時給や時間数に制限があった。制度や資金面をしっかり整えることが先ではないか。

廣松　課題が多すぎて、結局のところわからない。部活の自由選択も全然ありだし、先生の負担軽減も理解できる。今はぼんやりした形しかないので、課題はあるが「分からない」にした。

――それぞれお聞きになりたいことはないですか。

松本　例えばスイミングスクールは月謝を払って通っている。スイミングスクールのような民間のスポーツクラブと学校が連携し、地域移行するのが1番しっくりきている。塾に行くような感覚に近いのでは。

廣松　教員には異動がある。逆に外部コーチが教えている所に教員で詳しい人が来た場合、「出て行け」ってなるのでは。部活動の地域移行についての概要を聞いても、突っ込みたくなるようなところしかない。

松本　顧問をやりたい先生と地域のボランティアとの人間関係のもつれみたいなのは多分あるはずで、学校側、教員の意識も変わらないといけない。また、今の給料を保証し、単年契約じゃなく、ある程度長いスパンでお任せできる仕組みがあったら、仕事として手を挙げる人は多いのでは。

柿原　学校側は部活を増やすことはできないと言い続けている。1人でも走りたいっていう子がいるならば、自分自身が指導しようと思っている。自分が選手を続けているので、子どもを引っ張りながら走りを楽しむっていう、自分の練習プラス、子どもらの能力を上げていきたい。

瀧花　空手も火曜日と木曜日の夜7時から9時まで練習しているが、時間を合わせて中学生が来てもらえるんだったら指導したい。こういう形で貢献できるんであればしていきたい。

梅山　学校の先生には異動がある。自分が中学校の時もバレー部の先生が3年生の春に異動して、バレーを全く知らない先生になり、（自分らの責任もあるでしょうが）そこからはチームとしては伸びていかなかった。今までの部活は教育の側面もあったと思うが、自分は教師じゃない。例えば部内で「いじめ」があった時の対応や、保護者にどういう風にアプローチするのかが問題。

――いろんな課題が見えてきた。先生が変わると大会とかコンクールで上位に行けないような話はよくある。指導者は大事。

〈Q3〉行政からの支援策として必要なこと

――3つ目のクエスチョンは「子どもたちの健全育成、スポーツ振興に対して必要と考える行政からの支援策は」です。

松本　去年の6月から活動を始めた。新しく始めるにあたって難しさを感じた。また、体育館の利用の取りまとめは当事者間でするべきではない。地域移行でのスムーズな連携は、K-Friendsの位置付けがとても重要で、コミュニケーションや連携を良い形にできるようにみんなで話し合いたい。

柿原　スポーツのイベントが少ない。どのクラブに入りたいかの選択肢は多いほどいい。それぞれの競技がイベントをやって、選べる環境があってもよいのでは。

梅山　指導のために職場で先に帰りますと言っても後ろ髪を引かれるような感じもある。行政から仕事場へ「配慮をしてください」といってことだが、何かおすすめのイベントは。

――スポーツイベントは少ない。どのクラブに入りたいかの選択肢は多いほどいい。それぞれの競技がイベントをやって、選べる環境があってもよいのでは。

梅山　指導のために職場で先に帰りますと言っても後ろ髪を引かれるような感じもある。行政から仕事場へ「配慮をしてください」と

《上勝クレイン》
廣松（さとし） 聡志

自身も小学生時代に所属していた上勝クレイン（少年サッカー）のコーチ。K-Friendsの理事も務める。3人兄弟の子育て中。

《Stand up》
松本（まつもと） 浩明（ひろあき）

7年前に勝浦町にUターン。ミニバスケットボールクラブStand up(スタンドアップ)を昨年6月に立ち上げる。公務員。

《生比奈クラブ》
梅山（うめやま） 和久（かずひさ）

産業機械を取り扱う会社で衛生管理を担当。環境衛生を日々研究する傍ら、生比奈クラブ（バレー）のコーチを務める。

《一心会》
瀧花（たきばな） 直行（なおゆき）

一心会（勝浦道場）で空手を指導。競技歴15年。2006年カナダのバンクーバーにおいて開催された、男子組手黒帯70kg以下の部で3位入賞。

《勝浦郡陸上競技協会》
柿原（かきはら） 昌典（まさのり）

徳島東工業高校陸上部を卒業し現在も選手として活動する傍ら、陸協ジュニアを指導。勝浦郡陸上競技協会副会長。徳島駅伝に２７回出場。

《トークゲスト》
スポーツ団体関係者

スポーツに関わる多方面の方々に集まっていただき、オーバートークしていただきました。

《テーマ》
「スポーツ振興と勝浦の子ども達」

言ってもらえると行きやすい。

廣松　小学校のグラウンド状況が良くない。運動公園も設備をしっかりして練習環境をよくしてもらえたら。また、スポーツ少年団への補助金は町内の子どもが対象だが、勝浦町内に拠点があれば町外の子どもも対象にしたら、充実したチーム運営になっていくと思う。

――運動公園が活用できたらスポーツ環境が良くなりそうですね。

柿原　運動公園は1周1kmほどある。夜走る時にちょっとでもライトがあったら練習できる。陸協からお願いしたことがあるが、河川敷なので手入れができないと。改善を。

――たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。今後、この交流の場がきっかけになり、町に働きかけていくベースになったと思う。

――最後に一言ずつ今回の企画に参加した感想をお願いします。

松本　誰かが何か動き出さないと物事は始まらない。本質は子どもがやりたいかどうかが全て。大人はその環境を自分たちのできる範囲で整えるかどうかだ。

廣松　自分の中ではなかったような考え方とか色々聞けて勉強になった。地域移行していく中で、できることをお手伝いしていきたい。

柿原　各グループのみなさんと、今日を機会に連携を取っていくようにしたい。将来は勝浦の子どもがスポーツで活躍できるようにすることが自分の目標である。地域移行を計画性を持って進め、みんなが分かるようにしてほしい。

瀧花　普段コミュニケーション取る機会のなかった指導者の方とコミュニケーションが図れ、各団体が抱える内情も聞けて、すごく参考になり勉強にもなった。地域移行の問題は自分には関係のないことと思っていたが、今日のオーバートークを通じて指導者として、できることを探していかなあかんなあと考える機会になった。

梅山　それぞれのクラブで課題があることがわかった。今日は5つのクラブの参加だが、これ以外のクラブにも課題があると思う。他のクラブの話も聞いてみたい。今日出た課題については、しっかりとフィードバックしていただきたい。

――こんなにみなさんの空気感が一緒になってできると思っていなかった。様々な活動に取り組む町民の皆様に集まっていただき、お送りしてきました。本当にありがとうございました。

《議員考察》
新たな交流に期待
オーバートークを終え、議員が感じたこと

今回のオーバートークで、初対面の指導者を含む5人の方から多くの意見をいただき、町として対応すべき今後の課題が明らかになりました。これらの課題を共有できたことは、今回の最大の成果と感じています。具体的には、地域移行、星谷運動公園の問題、児童数の減少に伴う部員減少などが、町全体で解決しなければならない重要な課題として浮き彫りになりました。また、終了後には参加者同士が連絡先を交換し、今後の交流がさらに深まることを期待します。議会としては、今後もこのような会を定期的に開催できるよう、教育委員会とともに勝浦町のスポーツ振興に積極的に取り組んでいきます。

一般質問

町政の“ここ”が聞きたい！

一般質問とは、議員個人が町長などの執行部に対して執行状況や将来に対する考え方などの報告や説明を求め、町が町民のために適切な町政運営を進めているかを確認する場。3月・7月・11月に行っている。

防災まちづくり	狭あい部分　安全対策は交通安全対策会議において検討	玉置	P.12
	地区と共に知恵や工夫で避難所の在り方を検討していく	美馬	P.13
	合併浄化槽普及率向上のために補助メニューを見直したい	長尾	P.14
	町営住宅　当面は建て替えせず補修で維持管理する	瀬戸	P.16
	お盆期間中のごみ収集　委託業者に対応を相談したい	瀬戸	P.16
	特産品づくりや公園整備で恐竜にちなんだものを考えたい	福井	P.18
	ソフトボール以外の大会開催は多角的に検討が必要	花房	P.19
	活性化センターと道の駅の一体的運営をめざす	花房	P.19
教育・子育て	少子化、子育て支援に十分に費用をかける	玉置	P.12
	学校給食における有機米提供は量と価格面で課題がある	長尾	P.14
	地域交流の中で子ども達の町への愛着を育みたい	井出	P.15
農業振興	農業人材育成　町も支援	井出	P.15
	スマート農業　積極的導入が必要　まずは防除作業等で活用検討	内谷	P.17
医療・福祉	老朽化が進む喜楽園　町として支援検討したい	美馬	P.13
	患者のためになるようであれば医科歯科連携を検討したい	福井	P.18

過去に発行した勝浦町議会広報や一般質問の全編映像は、公式ウェブサイトから閲覧できます。
そちらも合わせてご覧ください。
http://www.town.katsuura.lg.jp/gikai/

玉置（たまおき） 守（まもる） 議員

課題が残る通学路の安全対策 教育委員会 10カ所把握

狭あい部分　安全対策は
交通安全対策会議において検討

――県道新浜勝浦線の通学路としての安全確保と星谷橋の進捗状況は。

海川建設課長

新浜勝浦線は来年度も要望していく。星谷橋は土地の境界確認を実施中。用地関係者や関係団体に進入路・配水計画協議や星谷地区役員に説明や意見交換を行った。

――教育委員会が把握している通学路の危険箇所と改善策は。

石木教育委員会事務局長

安全対策は、勝浦町交通安全対策会議において検討し決定していく。

（危険箇所は表1のとおり）

危ない！　狭い！　見通しが悪い！

少子化、子育て支援に十分に費用をかける

――町の喫緊の課題と対策は何か。

野上町長

少子化、子育て支援に十分に費用をかける。後継者、担い手不足、労働力不足、コミュニティー各地区の人材不足に目を向け支援していく。安心・安全な暮らしの実現、防災対策、高齢者の生きがいづくり、医療や福祉、移動手段の確保充実をしたい。

――町長と職員の意志疎通はどのようにしているのか。

町長

職員との意思疎通は、年1回の自己申告、アイデアの募集、1対1での対話等を行っている。

――町民から職員の質の低下を問われることがある。何らかの不満があるのではないか。

町長

朝礼、課長会議等で法令遵守などについて、指示、指摘をしている。町民の信頼に応えていきたい。

その他の質問

- 道の駅周辺整備
- 町おこし団体への 助成と支援

表1	危険箇所	状況
1	R16 柳原バス停から田中屋駐車場	道幅狭く交通量多い（写真）
2	R16 こすもす保育園から旧 JA 生比奈支所	道幅狭く見通しが悪い
3	R16 中角勝浦物産前	交通量多く横断が危険
4	R16 吉岡モータース前	路側帯が狭い
5	R16 役場前から寒山商店前	路側帯が狭く急カーブや水路がある
6	町道星谷中央線・星谷橋	橋幅が狭く川に転落の恐れ
7	勝中通学線（土手）	ガードレールがない区間があり、転落の恐れ
8	町道中角黒岩線	生比奈小学校から勝浦中央橋は急こう配で見通しが悪い
9	町道横瀬与川内線 農村環境改善センター北側	がけ崩れの恐れ
10	町道坂本下道線 坂本久良田付近	道幅狭く、ガードレールがない

美馬（みま） 友子（ともこ） 議員

水害時に使用できない 全15カ所のうち9カ所 町内の集会所

老朽化が進む喜楽園 町として支援検討したい

――住民は勝浦病院に期待を寄せている。収益よりも医業費用が上回り経営状況は厳しい。空きベッドが多く人件費は高い。13対1の看護体制で看護の質向上が必要ではないか。

笠木勝浦病院事務局長

経営効果は年額1300万円の増収になるので、早いうちに取得を進めたい。

――喜楽苑1号館の老朽化や災害対策として建て替えの計画がある。町として支援は多い。町としても支援を検討したい。

長友福祉課長

平成4年からサービスが開始され、町唯一の高齢者福祉施設で、福祉避難所でもあり町委託事業も

ここに建てばいいなぁ～

地区と共に知恵や工夫で避難所の在り方を検討していく

――棚野集会所は浸水想定区域となり、区民に相談なく避難所としての機能が消えた。防災訓練にも使えない。大雨時の避難所開設は、避難路が危険な円城寺で開設しなければならないのか。

中瀬総務防災課長

安全とは言えない経路だが、他の地区もすべての人が安全に行くことはできない。15集会所のうち9集会所は水害時に使えない現状である。

――近隣地区の避難所はどこか。

総務防災課長

久国集会所や住民福祉センター、横瀬小学校を準備している。

――高齢者や坂道を歩けない方は縁故避難しかないということか。

総務防災課長

棚野区は要援護者個別避難計画策定を熱心に取り組み、垂直避難をするなど命を守る確保の準備が進んでいると聞いている。

――集会所は避難所として使えない。円城寺までたどり着けない。避難所の移転は必要ではないか。

総務防災課長

地区と話し合いながら知恵や工夫で避難所の在り方を検討していく。ほとんどの集会所が30年経過しているが、移転する計画はない。

その他の質問

- 魅力ある充実した情報発信を

長尾 隆資 議員（ながお たかし）

有機無農薬栽培の推進には生産者の理解とルール構築が必要

学校給食における有機米提供は量と価格面で課題がある

――国は「みどりの食糧システム戦略」を進めている。肥料、飼料、農薬の高騰対策として、経費節減のため有機無農薬栽培に取り組んではどうか。安全、安心食材で勝浦農産物のＰＲを。

上村農業振興課長

本町も「徳島県みどりの食糧システム戦略基本計画」に参加している。農業生産者や消費者の理解を得て、販売ルールの構築等、関連団体との情報収集に努める。

――食育、食糧の安心安全を含め、まずは月１回から学校給食に有機米の提供をすることは可能か。

石木教育委員会事務局長

本町の学校給食については、食育材も地産地消の方針のもと、食育に取り組んでいる。有機米の提供については量の問題、価格高騰など課題がある。

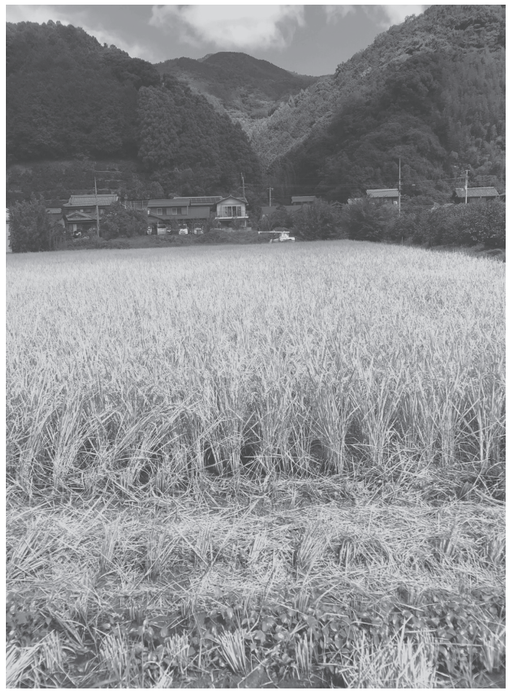
合併浄化槽普及率向上のために補助メニューを見直したい

――合併浄化槽普及率１００％を令和17年度を目途に実現する計画があるが、補助対象から外れた世帯がある。環境保護のためにも普及率１００％をめざす必要があるので、県に対して規制緩和を要望したらどうか。

大上上下水道課長

「同一敷地内二世帯で一つの浄化槽を利用している」場合は補助対象外だ。町内にはまだあるし、需要はあると考える。

普及率向上のためにＳＤＧｓの推進、Ｉターン・Ｕターンなどの定住対策も含め、補助メニューの見直しを検討したい。



有機無農薬栽培の推進を

その他の質問

- 立川不燃物処理場の見直し

井出 美智子 議員（いで みちこ）

次世代を担う若手農業者支援 農業振興課も相談に乗り協力していく

農業人材育成　町も支援

――農業次世代人材投資事業はどういう制度か。

上村農業振興課長

次世代を担う若い独立した農業者の育成のため、県の準備型は県が認める農業大学校やかんきつアカデミー、先進農家等で、最大２年間の研修期間中に年間１５０万円を支援し、国の営農開始型は新規就農者へ３年間給付金を年間１５０万円支援する。

――制度利用の壁はあるのか。

農業振興課長

経営開始から５年までに農業で生計が成り立つ青年等就農計画の認定が必要。農地の所有権や利用権、主な機械・施設を交付対象者が有している親元就農の場合は、親の経営から独立した部門の経営などが条件。

――県の準備型の１５０万円は２年間支給されるが、かんきつアカデミーは１年で修了する。アカデミーを卒業後、一年間、勝浦町のみかん農家で研修することはできないのか。

農業振興課長

町内のみかん農家が、先進農家として県に認定されれば可能。

――ハードルが高く町の応援が必要。しっかり後押しをお願いしたい。

野上町長

農業振興課で相談に乗り、県に問い合わせるなど支援していく。

地域交流の中で子ども達の町への愛着を育みたい

――食料・農業の教育における位置づけは、どうなっているのか。

市川教育長

５年生の総合学習の時間に６月に田植をし、９月に稲刈りをしている。地域の方と交流をする中で農業の良さや楽しさを学びながら地域のすばらしさを知り、勝浦町に愛着を持つ子供たちを継続的に育てていきたい。

――未来を担う子供たちが生きることの本質を学ぶ機会として、小学校で農業科を作れないのか。

教育長

教科は国が決めるべきであり、子供たちに勝浦らしく農業の良さを感じてもらうような取組を続けていきたい。

後継者難に悩むみかん園地

その他の質問

- コロナ５類移行後の対策について
- 県道整備と安全対策を

瀬戸（せと） 直一（なおいち） 議員

町営住宅の維持管理 長寿命化も見据えて対応している

町営住宅　当面は建て替えせず補修で維持管理する

――各地区の年数はどのくらいたっているのか。

住民課長

古い住宅では昭和47年、新しい住宅では平成10年建設。石原住宅は平成2年建設。

――家賃は何を基準に決定しているのか。

住民課長

住宅の場所、築年数、それから入居する世帯の所得状況等により決まっている。

――当初は若者住宅として始まり年齢制限もあったが、現在の契約条件はどうなっているのか。

住民課長

当初は若者向け住宅として、若者の方が入居していたが、現在は年齢の制限はない。入居できる期限については、規定がなく、所得が増えるなど入居条件に合わなくなった方については、明渡し請求をする。

――この先、大規模な修理が必要になった場合はどう対処するのか。

野上町長

長寿命化計画を策定し、あらかじめ維持管理ができるように対応している。これをもう少し続ける。住宅についてそのまま補修ができないかと考えている。今のところ建て替えの計画はない。

平成２年建設の石原住宅

お盆期間中のごみ収集委託業者に対応を相談したい

――虫がわきやすいお盆休み期間中のごみ収集休業はどうなっているのか。

住民課長

可能な限り対応できるよう委託業者と相談したい。

その他の質問

- 新型コロナウイルス感染症について
- 沼江バイパスの今後の見通しは

内谷（うちたに） 安宏（やすひろ） 議員

ほかの機関も一緒になってスマート農業推進に取り組んでいきたい

スマート農業　積極的導入が必要まずは防除作業等で活用検討

――柑橘へのドローン防除の実証実験、それぞれの目的と実施内容と結果は。

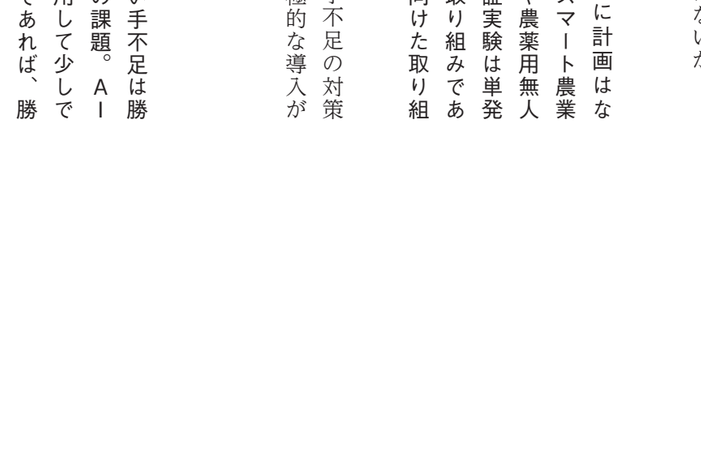
上村農業振興課長

令和3年に自動操縦でのドローン防除効果の確認を目的に実施。感水紙による散布確認では葉の表裏で散布量の差があったが、薬剤効果の面では問題はないとの結果だった。令和4年は薬剤効果の検証を目的に実施。薬剤効果において通常の防除と明確な差がないことを確認した。令和5年、位置情報取得手法の可否について確認し、問題なく取得できた。

――メーカーに対して不足している農薬の登録を要望するなど、勝浦町としてドローン防除をさらに進めることは考えているか。

野上町長

農家の高齢化や担い手不足は勝浦町にとっても喫緊の課題。AIやドローンなどを利用して少しでも省力化が図れるのであれば、勝浦町にとっても基幹作物との認識から、積極的にスマート農業については進めていきたい。まず、夏場の防除作業や除草作業についての活用検討は、ほかの機関も一緒になって取り組んでいきたい。町も積極的に参画していきたい。



期待が大きいドローン防除

農業振興課長

ドローン防除で使用できる農薬の拡大は必要だ。農業用薬剤関連団体等への要望は、県と連携し強く要望していきたい。

――ドローン防除以外に実証実験を行うなどの計画はないか。

農業振興課長

ドローン防除以外に計画はない。県が進めているスマート農業では、除草ロボットや農薬用無人車などがあるが、実証実験は単発で導入は個人による取り組みであり、その後の普及に向けた取り組みはしていない。

――高齢化や担い手不足の対策にスマート農業の積極的な導入が必要。町長の考えは。

福井（ふくい） 裕美（ひろみ） 議員

町の資源「恐竜化石」既存事業の中で活用を考えたい

特産品づくりや公園整備で恐竜にちなんだものを考えたい

――町の財産である化石を盗難から守る対策は。

石木教育委員会事務局長

発掘現場付近に監視カメラを設置し、年間を通じて随時パトロールをしている。

――恐竜事業の来年度以降の体制は。

教育委員会事務局長

教育委員会に配置されている荻野参与は来年2月末までの任用となっている。教育委員会の地域おこし協力隊員と令和5年6月1日付で関係業務の委託契約を締結した。現在は参与とともに関係業務に携わり、本町の状況を含む業務への理解を深めている。令和6年度は教育委員会の担当職員と地域おこし協力隊員及び企画交流課を含め、全町的な取組としての体制を考えている。

――「ふるさと教育」と「町のPR」に関わる恐竜事業。そのために「恐竜課」という新しい課を作ってはどうか。

野上町長

限られた職員の中で新たに課を作るのは難しい。企画交流課でやっている特産品づくりや、新たな公園整備の中で恐竜にちなんだものを考えていきたい。

小学校での恐竜授業

患者のためになるようであれば医科歯科連携を検討したい

――医師が診察した時、義歯が合っていない、歯周病、口腔清掃が不十分である状態を認められる場合、患者に対して医師から歯科治療を受けるよう紹介状を出すことができる。住民の健康増進に寄与する医科歯科連携を提案したい。

笠木勝浦病院事務局長

患者のためになるようであれば検討したい。

その他の質問

- 移住希望者の受け入れ体制は

花房（はなふさ） 勝一（かついち） 議員

体育協会の活動再開にはK-Friendsとの役割の明確化が必要

ソフトボール以外の大会開催は多角的に検討が必要

――今年開催したソフトボール大会を教育委員会としてどのように評価しているか。

石木教育委員会事務局長

総合計画でめざしている「健康づくりや地域間の連携強化を目的としたコミュニティスポーツの推進」という面において成果を残せたと考える。

――来年にはソフトボール以外の競技の大会を開催してほしいが、実現は可能か。

教育委員会事務局長

今回だいぶ間が開いての開催となったため、ボールやバット等の道具の調達からになった。他の種目となると当然そのような準備が必要となり、道具の管理場所の心配もしなければならない。色々確認すべき点があり、検討が必要である。

――体育協会（スポーツ協会）の活動が復活するといろんな意味で本町も元気になると考える。どうすれば復活できると考えるか。

大盛り上がりのソフトボール大会

教育委員会事務局長

体育協会の意見を聞き、関係者と協議したい。こういった対応を積み重ね、K-Friendsと体育協会、それぞれの組織の役割を町全体として明確化していきたい。

活性化センターと道の駅の一体的運営をめざす

――今回の指定管理者募集で物価高騰対策や電気料金値上げなど、3年前との変更点は。

中瀬総務防災課長

利用料金制を導入する施設があることで、必要な条例改正を行う。インボイスへの対応や10月に上がった最低賃金を遵守し、会計年度任用職員の給料月額、時間外単価等を参考にして積算した。

――「道の駅ひなの里かつうら」に応募がなかったが、この理由をどう考えるか。

寺尾企画交流課長

応募予定であった団体の組織体制等の問題であったと考える。

――町は、活性化センターや道の駅周辺を一体的に管理運営する方針であったと思うが、変更したのか。

企画交流課長

一体的に運営していく方針は変わっていない。効率や人員の面、自主財源の問題も踏まえて、これまでと同様に取り組んでいきたい。

その他の質問

- スマート農業推進について
- 除草作業について
- 防災対策について
- 防災監不在について

ぶっちゃけどうなの？議会広報

8月29日　役場3階　議場に集まっていただきモニター会議を開催しました。初めて議場に入る方が多く、いい機会になりました。

- 笑顔をテーマにしているのがとても良い
- よく工夫されている
- 子ども達の笑顔に癒されます
- 新しい議員さんの考えもよく分かりました
- 中学生、高校生の意見も取り入れては
- 町内の子供達が大活躍している様子が知れて嬉しく誇らしい気持ちになる
- 「マラソン議会」のマラソンの意味が分かりません

マラソン議会とは、1年間を会期とする通年会期制のことで、勝浦町では平成25年7月10日から取り入れています。

人事人選

勝浦町に新しい風を吹かせる、人事人選。

教育委員会をはじめ、2つの委員任命に同意。

勝浦町教育委員会
教育委員　出葉 美耶 氏（生名）

勝浦町固定資産評価審査委員会
委員　小坂 守 氏（横瀬）

新年に向けてのご挨拶

勝浦町議会議長　松田 貴志

本年6月に8年ぶりの町議会議員選挙が実施され、新たに10人の議員が誕生しました。新人4人が加わった議会チームのスタート以来、新人議員研修から始まり、全議員対象の研修会を開催するなど、議会力向上に向けて不断に取り組んでいます。引き続き、先進地視察や各種研修会等への積極的な参加により、議員個人や議会として研鑽を重ねていきます。

本年は小、中学校の女子バレー部の県大会優勝や中学野球の2年連続県総体優勝など、スポーツ分野での活躍がとても嬉しい出来事でした。また、徳島県で初めてのプロバスケットボールチーム「徳島ガンバロウズ」が設立されるなど、多くのプロスポーツが身近に感じられる環境が整いつつあります。

年明けには70回の記念大会となる「徳島駅伝」や来夏には「パリオリンピック」が開催されます。「スポーツ」と「まちづくり」は親和性が高く、健康やコミュニティづくりにも生かすことが可能です。みんなが元気で笑顔あふれる、何事にもチャレンジできる勝浦町にしたいですね。

結びにあたり、勝浦町や町民の皆様にとりまして来る年が、夢と希望に満ちたすばらしい年になりますよう心よりお祈り申し上げます。

編集後記

今年はコロナウイルス感染症が5類に移行され、コロナ禍前のように様々な活動が再開されました。町内でも多くのイベントが開催され、活発な雰囲気が戻ってきたのではないでしょうか。2024年はさらに活動的な勝浦町となることに期待しています。

今年6月に町議会議員選挙が行われ、新人議員が4人当選する結果となりました。私もそのうちの一人ですが、広報委員を務めることとなり発刊に向けて編集を行いました。読者に議会の動きがわかりやすく伝わる誌面となるよう、心がけて制作していきます。

内谷　安宏

さかもと坂道マラソン

KATSUURA GAMB★ROUS

地域のホシ　ガンバる人

かつうらガンバロウズ

地域でガンバる人（地域のホシ）は、活動こそ各々（おのおの）ですが、「地域を盛り上げる」というアツい想いは共通。そんな共通の想いを持つ人はみんな「かつうらガンバロウズ」の一員です。

荻野慎諧（おぎ の しんかい）

山梨県南アルプス市出身

勝浦町参与

古生物学者（理学博士）。大学や研究所、シンクタンクの研究員や博物館支援会社の起業などを経て、日本各地で恐竜を活用した地域振興を行う。著書に「古生物学者、妖怪を掘る」など。令和３年度から総務省の地域プロジェクトマネージャー制度を活用して勝浦町で活動中。

ガンバりポイント

自らが作成した実物大の復元骨格と

発掘体験のようなイベントをきっかけに勝浦町へ来てもらい、より勝浦を知ってもらう仕掛けを講じました。結果として特に夏場の来訪者が大きく増加しています。恐竜事業を継続できるように、インフラ整備（恐竜の全身骨格など）を同時進行で進めてきました。図書館には３年間で制作された勝浦産の恐竜たちが展示されています。また、地域の学習材料として、保育園から学校、高齢者の方々まで恐竜を知ってもらう取り組みを行ってきました。

これからガンバること

３年かけてある程度の中身ができあがったので、勝浦町来訪の際に足を止める「点」にはなるでしょう。今後はそれらをつなげて「線」や「面」にしていってほしいと思います。私の勝浦町の任期は令和５年度までですが、古生物の普及発展がライフワークなので、別の地域でも続けていきます。今後は恐竜だけでなく妖怪や３DCG などの分野で活動の範囲が広がっており、さまざまな場面で私の活動成果に触れる機会があろうかと思います。

仲間のエール

応援する人の声

先生からは、勝浦町の課題についての的確な指摘があり、まちづくりのヒントになりました。しかし、「恐竜のまち」としてのシンボルモニュメントの設置が実現しなかったことは非常に残念です。離任後も勝浦町とは何らかの形で関わり続けてほしいです。

表紙写真募集！

テーマは「町民の笑顔」！

採用された方にはお礼の品をお送りいたします。

詳細は下記 URL または QR コードをチェック！

https://formok.com/f/1chm9gnl

表紙探訪

今号の表紙はこんな人

今回の表紙は、コスモス保育園のハロウィンパーティの様子です。色とりどりの個性豊かなコスチュームに身を包んだ園児たち。「トリック・オア・トリート！」の声が保育園に響き渡り、子どもたちはお菓子をたくさん貰って大満足♫

議会だよりかつうら　令和５年12月30日発行　第97号　発行：徳島県勝浦町議会　編集：議会広報常任委員会
771-4395 徳島県勝浦郡勝浦町大字久国字久保田３　電話：0885-42-2513